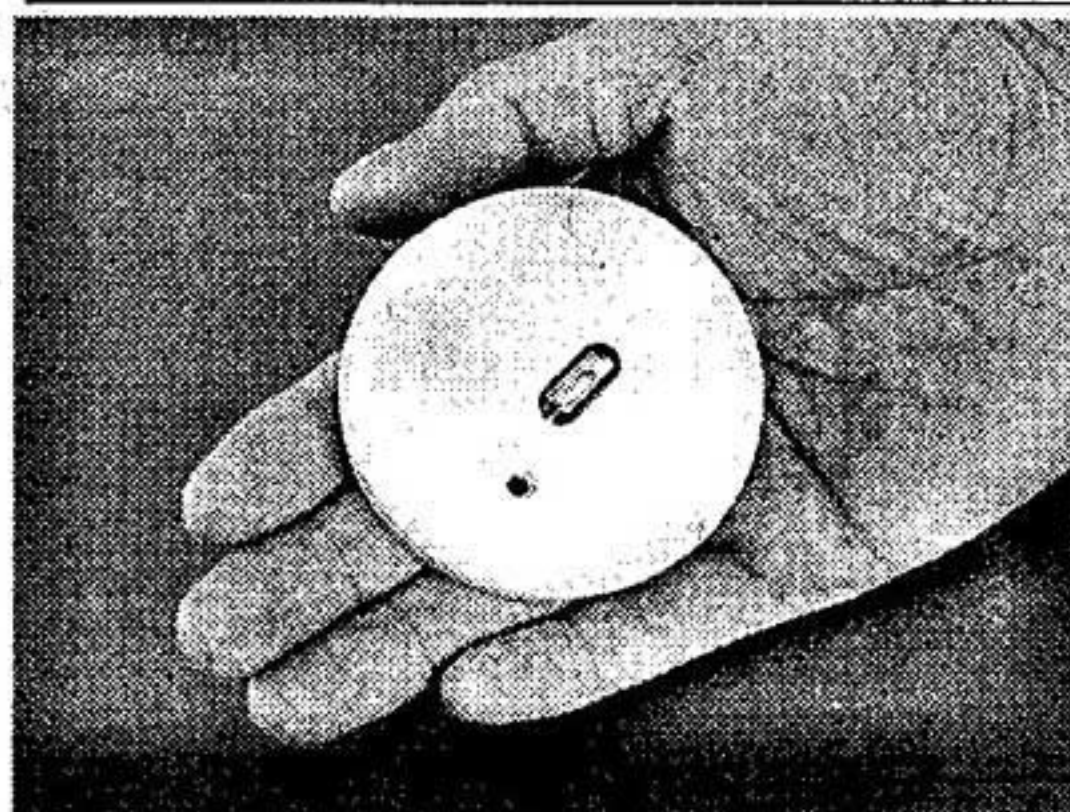


屋外でも火災検知可能

アンテック小型センサー開発

陶芸窯の温度制御器な
ど開発のアンテック（岡
山県邑久町）は、住宅な
どの火災の発生を検知す
る小型センサーを開発し
た。センサーが炎に含ま
れる紫外線を太陽光の紫
外線と見分けて検出する
ため、屋外でも使用可能
なことが特長。近く
電子部品商社などを通じ
て販売を始める。

装置は直径六・八センチ、
高さ二・五センチの丸形。壁
や天井などに設置するこ
とで火災が発生した場
合、センサーが炎の紫外
線を検知。警報ブザーを



鳴らしたり、ライトを点
滅させ、異常を知らせる
仕組み。電源は屋内配線
を利用する。

センサーの感知範囲は
上下、左右各二二〇度で、
同社によると五センチ先
にある二センチ程度の炎
の検出が可能。煙や
熱に反応する通常の
センサーとは違い、

小さな炎でも感知するの
で火災の初期発見に役立
つ、という。また、大気
層の影響で絶えず変動す
る太陽光の紫外線を識別
するため、屋外にも設置
できる。価格はオープン
価格だが、一個二万円弱
の見込み。

火災警報器は戸建て新
築住宅への設置義務化が
検討されており、同社は
「将来需要は十分期待で
きる。工務店での採用な
ども含め当面月千個の販
売が目標」としている。
同社は一九九七年設
立。資本金二千万円。電
気窯の自動焼成装置、
ガス燃料の自動停止装
置など陶芸関連の製品
開発が主業務。年商約八
千万円。

平成15年12月19日

山陽新聞